



平成24年度「国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を開催＝九州森林管理局

平成24年度
国有林野等所在市町村長有志連絡協議会を開催
各県ブロック代表市町村長が出席

11月28日森林管理局2階大会議室において、国有林の所在する市町村との連携を一層推進す

るため、地域の声を国有林野事業に反映させていくことを目的として、各県ブロックからの代表市町村長の参

加のもと「平成24年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」が開かれました。

また、同連絡協議会に先立ち、平成24年10月12日から31日までの間九州・沖縄の各県ブロックにおいて国有林野等所在市町村長有志連絡協議会が開催されました。

また、同連絡協議会に先立ち、平成24年10月12日から31日までの間九州・沖縄の各県ブロックにおいて国有林野等所在市町村長有志連絡協議会が開催されました。

加のもと「平成24年度国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」が開かれました。また、同連絡協議会に先立ち、平成24年10月12日から31日までの間九州・沖縄の各県ブロックにおいて国有林野等所在市町村長有志連絡協議会が開催されました。

また、同連絡協議会に先立ち、平成24年10月12日から31日までの間九州・沖縄の各県ブロックにおいて国有林野等所在市町村長有志連絡協議会が開催されました。

また、同連絡協議会に先立ち、平成24年10月12日から31日までの間九州・沖縄の各県ブロックにおいて国有林野等所在市町村長有志連絡協議会が開催されました。

また、同連絡協議会に先立ち、平成24年10月12日から31日までの間九州・沖縄の各県ブロックにおいて国有林野等所在市町村長有志連絡協議会が開催されました。

(担当＝企画調整室)

モニター会議『佐賀』を開催 モニター15人が参加

11月17日佐賀県唐津市虹の松原国有林にて、国有林モニター会議佐賀を開催し、15人のモニターが参加しました。

午前中は、日本三大松原に数えられる「虹の松原」全域を一望できる鏡山西展望台で、城風人企画調整室長、大倉孝行佐賀森林管理署長の挨拶の後、内村圭一流域管理調整官と迫畑啓逸業務課長から佐賀森林管理署の概要や「虹の松原」の管理について説明がありました。小雨がぱらつくあいにくの天気でしたが、参加者からは、鏡山から見下ろす「虹の松原」のすばらしい眺望に歓声が上がりました。



モニター会議「佐賀」へ参加の皆さん

午後からは、松林の中を縦断するマイクロボスの車窓から、延々と続くマツ林を眺め、内村圭一流域管理調整官の案内で松林に入り、大小様々なクロマツが林立する中、地域の方々によって補植されたクロマツや、海風を受けて松林全体の幹が陸側に屈曲している様子、マツクイムシ被害の拡大を防ぐために特別伐倒駆除された切株や薬剤の樹幹注入の痕跡などの説明を受けながら、海岸まで林内を散策しま

した。参加者からは、「美しい松林を実際に見ることが出来、とても良い経験になった」などの感想が聞かれました。

その後、浜玉公民館へ移動し、九州森林管理局の取組紹介、今回のモニター会議を通しての質疑応答や意見交換会を行いました。見学した「虹の松原」の今後の利用や管理のあり方、森林・林業の再生に向けた人材育成の必要性、バイオマス発電など新たな需要喚起などについて、「案内板の設置など利用者の目線で整備することが大事」「外国では、木材の利用促進に関する補助制度などがあるが、日本

ではどうか」など活発な意見がありました。

今回頂いた貴重な意見や感想は、今後の国有林野の管理経営に活かしてまいります。

(担当：企画調整室)

世界二つだけの巣箱作り

【大分西部森林管理署】宇佐市立福貴野分校は安心院町に位置し児童4人の小さな小学校です。毎年森林教室を行っており、今回は巣箱作りに挑戦しました。児童らは慣れない手つきで、職員のアドバイスを受け一生懸命釘を打ち込んでいました。出来上がった巣箱に自分の好きな絵

を描き、どれも個性的で世界に一つだけの巣箱が完成しました。最後に、小鳥がきたら写真を送ってねとお願いし終了しました。



出来上がった巣箱を手にする子供ら＝大分西部

我が町の国有林

私の住む町は、旧霧島屋久国立公園の西山麓にあります。

町の東方に位置する標高一〇九二呎の栗野岳は、標高七〇〇呎附近以上は全て国有林で形成されています。



この栗野岳は古代から近代に至るまで、或る種の霊山として山麓の人々は畏敬の念を持って



鹿児島県 湧水町

町長

米満重満さん

編纂一三〇〇年
今年、古事記を迎え、古事記の原文にある「天降坐于笠紫日向之高千穂之久士布流多氣」の文中に出てくる「久士布流多氣」が私の町にある国有林の栗野岳かと町の古老の方々は話しをされておき、山頂にあった「逆錐」は今も御社に大切に保存されて

見られるようになってきました。今年、古事記を迎え、古事記の原文にある「天降坐于笠紫日向之高千穂之久士布流多氣」の文中に出てくる「久士布流多氣」が私の町にある国有林の栗野岳かと町の古老の方々は話しをされておき、山頂にあった「逆錐」は今も御社に大切に保存されて

国有林というと、高質の良材が生産され里山の管理指針のよくなるものとして、受けとめられしてきましたが、私の町ではもうひとつ別の国有林の見方があり、町の学校校歌で歌われているほど、我が町発祥の地として、シンボリックな役割を担っている国有林があるとうことではあります。

これからも朝夕見上げる国有林は大自然と人の在り方をあうんの風情の中に、山麓の私達に教えてくれる大切な山であります。

第48回林道研究発表会

竹原技官が優秀賞受賞

東京都渋谷区「国立牙リソピック記念青少年総合センター」において、林道研究会主催による第48回林道研究発表会が開かれ、各森林管理局や各都道府県から林道担当者が23課題の発表をしました。

当局から森林整備課の竹原敬一郎技官が参加。「九州森林管

理局における林業専用道の取組みについて」と題し、平成23年度から取り組んでいる林業専用道のモデル路線の開設や作設指針の策定などを始めとして、林業専用道の推進のための取組みを発表し、見事優秀賞を受賞しました。

(担当) 森林整備課

一郎技官が参加。「九州森林管



沖土居 尚美さん

私は現在、鹿児島大学で林学を専攻しています。日頃の私は机に座って勉強することが多く、他の学生と比べると山での作業や調査が少ないことが悩みの種です。ですので、こうした現場を訪れる機会があればこれまで幾度も活用してきました。今回

もコンテナ苗の植栽現場および苗木生産業者への訪問を楽しみしておりました。

参加してみたい印象に残ったところが2つあります。

一つ目はモニター会議の参加者についての感想です。参加者の中には林業に

ついて何らかの知識がある方も

いれば、山が好きで参加した方

など様々な方がいらっしやいます。短い時間でしたので一人一人の方と十分にお話することは出来ませんが、どのようなかたが山に興味を持っているのか、山に対してどのような印象や考えを持っているのかを知れたことは、私自身、研究を進



発表する森林整備課の竹原技官

めていく上で何よりも収穫でした。ただ、参加者の中で私が一番若く、同世代の参加者がいないことは非常に残念でした。「山ガール」という言葉が象徴しているように、昨今は若い女性の中にも山に興味を持っています。私が発表する方は増えてきています。こうした方にも国有林モニターとして頂けるように国有林のアピール、会議の充実が図られればいいなと思いました。



出来上がった作品に満足の子供ら＝熊本南都

保育園児へ森林教室開催

【熊本南部森林管理署】多良木町「むつみ保育園」からの要請で、当署職員による森林教室を行いました。当日は、幼稚園児や先生約30人が湯前町のグリーンパレスに集合。紙芝居、色づいた葉を使った貼り紙の作成、ドングリのコマ回しや竹とんぼ飛ばし、ドングリ拾いの森林教室を行い、会場を駆け回る園児たちの元気をもらった一日となりました。

【熊本南部森林管理署】多良木町「むつみ保育園」からの要請で、当署職員による森林教室を行いました。当日は、幼稚園児や先生約30人が湯前町のグリーンパレスに集合。紙芝居、色づいた葉を使った貼り紙の作成、ドングリのコマ回しや竹とんぼ飛ばし、ドングリ拾いの森林教室を行い、会場を駆け回る園児たちの元気をもらった一日となりました。

ので聞きたいことは聞き、言いたいことは言おうというコンセプトで臨みました。結果、林野庁の政策や国有林の取り扱いに対する疑問や異議という方向で話が進み、林野庁や国有林の存在を初めて知った方には何を話しているか分からず発言しづらい意見交換会になっていました。(私も反省すべき点が多々あります)局の方にはこの意見交換会の意義についてお聞きしたところ、「知識のある方のご意見ももちろん頂きたいが、有識者との対談は日頃もある。だから、この場合は様々な方のご意見をお聞きしたい」ということでした。それでしたら、

もう少し、局の方が舵を取ってほしいのではないかと思います。生意気な感想ではありますが、局の方にはご自身の趣旨に沿った意見を徴収できる意見交換会へ発展させて頂きたいと思っています。

最後になりますが、森林管理局の皆様にはモニター会議の準備・運営をして頂いたことを大変感謝しております。また参加者の皆様とお会いできたことを大変嬉しく思っております。貴重な経験をすることができました。この場をお借りして、皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

国有林モニター会議を終えて

最後になりましたが、森林管理局の皆様にはモニター会議の準備・運営をして頂いたことを大変感謝しております。また参加者の皆様とお会いできたことを大変嬉しく思っております。貴重な経験をすることができました。この場をお借りして、皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

最後になりましたが、森林管理局の皆様にはモニター会議の準備・運営をして頂いたことを大変感謝しております。また参加者の皆様とお会いできたことを大変嬉しく思っております。貴重な経験をすることができました。この場をお借りして、皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(鹿児島県鹿児島市在住)

自署の名山



西都児湯森林管理署

都農森林事務所

森林官 日向 潔美

尾鈴山は、九州山地の東部に位置し、宮崎県中部の都農町と木城町にまたがる標高一四〇五・二桁の山です。北方に万吉山、神陰山、南方に長崎尾、矢筈岳、黒原山、春山などの支峰

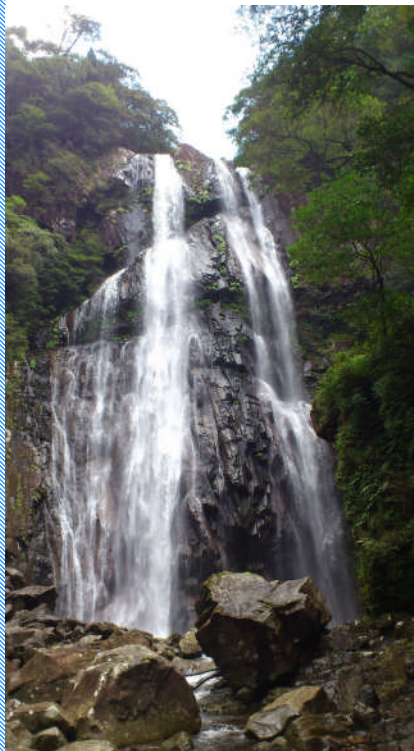


都農町市街地から見た「尾鈴山」の眺望

優美な山容を呈する「尾鈴山」 標高一四〇五・二桁

を従えた山塊を持ち、山形はゆるやかな円錐形をした優美な山容を呈しています。尾鈴山から南東へ流下する名貴川の上流部は、多くの深い谷が刻まれ、いたる所に多数の滝があります。日本の滝百選に選ばれている「矢研の滝」（落差73桁）や「白滝」（落差75桁）をはじめ、大小30を超える滝があり、「尾鈴山瀑布群」として国の名勝に指定されています。また、瀑布群を含む尾鈴山

一帯は尾鈴県立



自然公園にも指定されています。植物は、世界でも尾鈴山だけに自生するキバナノツキヌキホトギス、尾鈴山周辺地域にしか見られないウラジロミツバツツジ、ナガバナサンショウソウなどの固有種が分布するほか、矢筈岳の山頂付近の、コウヤマキ群落は南限自生地でもあり、貴重な植物が分布し、多様な植生を形成しています。尾鈴山をめぐるコースは、登山や滝めぐりを合わせたいくつかのコースが設定されており、初心者から中級者まで季節ごとに変化する尾鈴山の自然を堪能できます。春、シャクナゲ、アケボノツ



固有種の「キバナノツキヌキホトギス」

ツツジ、ミツバツツジなどの咲く時期は登山には特におすすめで、見事な花景色が、訪れる登山者の目を楽しませてくれます。地元都農町の観光協会などを中心に、毎年、春には山開き登山、夏には滝めぐり、秋には紅葉狩りなど、四季折々の尾鈴山の魅力を楽しめるイベントが開かれ、宮崎県内外から多くの参加者が訪れます。また、町営のキャンプ場もあり、山小屋やバ

ンガローなど、キャンプ施設も整備されているので、夏には大自然の中でキャンプや川遊び、釣りなどを満喫できます。このように魅力たっぷりの尾鈴山をぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。

落差73桁の矢研の滝

このように魅力たっぷりの尾鈴山をぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。

コンテナ苗の現地検討会開催

【大分西部森林管理署】低コスト造林の取組として、コンテナ苗の現地検討会を行い、自ら植栽を体験することによって、運搬性や植栽用具など改良点について意見交換をしました。翌日は、コンテナ苗植付箇所は大分西部流域林業活性化センターコンテナ苗普及促進部会を招き作業を見学。部会は、大分県や苗木生産者など苗木普及に向けた議論が行われることでコンテナ苗の普及が加速されることが期待されます。また、当署で取り組んでいる、低コストシカ食害防護ネットを披露し、意見を求めました。今後も情報交換の場を設け民・国の連携を深めていきたいと考えております。



シカ防護ネットを見学する参加者＝大分西部

第4回実践・公開講座

「草木染め」に挑戦

10月14日、監物台樹木園みどりの交流館において、第4回実践・公開講座「草木染め」を行いました。

今回の講座には、県内各地から23人が参加。講師に九州インストラクター会の廣瀬三重子さんを招き丁寧な指導の下、金茶系のタマネギの皮や黄色のセイタカアワダチソウ、薄紫色の口グウッド、赤色のスオウを原料に草木染めに挑戦。



色鮮やかに出来上がった作品を手に＝監物台樹木園

染め上がりの模様を想像しながら、各自で選んだハンカチやストールを箸で挟んだり輪ゴムや紐での絞り、染料作り、染めに挑戦した。講師に九州インストラクター会の廣瀬三重子さんを招き丁寧な指導の下、金茶系のタマネギの皮や黄色のセイタカアワダチソウ、薄紫色の口グウッド、赤色のスオウを原料に草木染めに挑戦。

（担当＝指導普及課）

小学校5年生児童へ森林教室

【宮崎北部森林管理署】五ヶ瀬町内4つの小学校5年生児童45人を対象に、五ヶ瀬ハイランドスキー場で、森林環境教育を行いました。最初に森林の役割とほたらきについて学び、「シカと森林のカード」を使ったゲームに挑戦、シカ被害による森林の現状を学びました。

また、先輩達が拾ったミズナラの実で「霧立越の歴史と自然を考える会」会長秋本治氏が育てたミズナラの苗50本を植樹し、その後向坂山登山道沿いの樹木の名前と特徴や、霧立越の歴史

について話がありました。道中、樹木の剥皮、スズメケの枯損が見られ、あらためてシカ被害の



秋本治氏の話熱心に聞く児童ら＝宮崎北部



先日、NHKの番組で、宮城県の牡鹿半島沖に浮かぶ金華山の自然を紹介していた。

この島はシカやサルが多く住むことでも知られている。シカの森林植生や生態系への影響はご承知のとおりだが、この島に生育するサンショウや、アザミの一種であるキンカアザミのトゲは他の地域のものに比較して硬くて長くなっており、シカに食われないよう特

現状と森林の大切さを学ぶ1日となりました。

おいた農林水産のできる

【大分森林管理署】10月20、21日に、大分県主催の「農林水産祭り」が別府市で開かれ、当署から『木づかい推進月間』を兼ねた参加となり、業務の紹介や森林からの贈り物の展示・販売を行い、今回は、丸太伐り大作戦、蜂の巣探検隊、鹿の角の販売などを取り入れ、多くの家族連れやカップルに好評でした。子供らがノコと格闘している姿は、「一生懸命さ」を改めて心に刻み込まれました。このよ



丸太切り大作戦へ挑戦するちびっ子ら＝大分

シカとサルが合流？

注目したのは、この島の林床（とは言わなかったが）では、九州各地と同様、シカが食わな植物の群落があちこちで見られ、そんな植物の一つであるレ

モンエゴマが秋になると多くの実をつけ、餌資源が乏しい中で子サルの貴重な餌になっていると言ったこと。

レモンエゴマは当署管内でも林道端に大群落を形成している。

うな機会を捉え、気づかい運動を活気づけ、森林の機能や林業の大切さ、「木を使う」PRに取り組んでまいります。

シソの実のようなのが実がサルの餌になるとするとシカがサルの餌場を作ってやっているといるということになるのかも知れない。

屋久島ではサルが木の実を食べる際に落とす枝葉をシカが下で待ち構えているとか、植物繊維が豊富なサルの糞をシカが食べていたとか、背中にサルを乗せたシカが歩いてきたとか言う話を聞く。

鳥獣被害の二大巨頭がひそかに合流しているのかも知れない。

（熊本南部森林管理署長 石神 智生）

照葉樹林復元ボランティア間伐を行う

綾中学校生21人が参加

11月23日宮崎県綾町の国有林において、平成24年度第1回照葉樹林復元ボランティア間伐及び森林散策が、綾の照葉樹林プロジェクト連携会議主催で開催され、綾町立綾中学校生徒21人と(株)ソーラーボランティア環境安全全部職員が参加。

集合場所の綾町の川中キャンプ場で開会式があり、主催者を代表して河野裕之九州森林管理局計画課長が「間伐を行うことによる照葉樹林復元の意義を感じながら生物多様性に富んだ森林にふれ合っていたきたい」と挨拶。準備体操、班編成の後



現地で間伐作業を見学する綾中学校の生徒＝綾町

作業地に移動し、綾森林事務所森林官による間伐の実技と安全指導を受け、各班毎に間伐を行い、午後から2班に分かれ「森林の散策」を行いました。

参加した中学生からは、「間伐は初めてのことでドキドキしたが森林管理署の指導で貴重な体験をさせてもらった」、「森林の大切さが少しだけ理解できた」などの声が聞か

小学生へ治山事業見学会を開催

(担当：計画課)

【鹿児島森林管理署】桜島の桜洲小学生と先生25人を対象に桜島の治山工事施工地で桜島治山事業見学会を行い、治山工事の概要や土石流の恐さなど説明しました。子供達からは、「こんな山奥まで来たのは初めて、こんなところで仕事をしている人たちが110人以上もいるって知りませんでした」、「なぜもっと大きいダムを作らないのですか?」などの意見や質問がありました。終了後、校長先生から「子供達は、興奮気味に話をしてくれました、是非またお願いします」との要望を受けま



桜島で治山事業見学会を終えて＝鹿児島

森林作業道設現地検討会

した。

【宮崎北部森林管理署】宮崎県や各市町村の担当職員、林業関係機関や事業体、近隣署など56人が参加し、2回目の森林作業道現地検討会を行いました。今回は、検討結果により開設した路網線形を踏査し、現地の状



現場で作設実演を見る参加者＝宮崎北部

況により計画路線と変更が生じた箇所や洗い越し施行箇所など、ポイントの説明があり、意見交換が行われました。午後からは、ザウルスロボでの作設実演を見学、根株や表土の処理方法などの説明を受け、初めての試みとして2回に分けた検討会は、参加者から大変参考になったとの意見も聞かれ、民有林へ作設技術の普及が期待される検討会と

「吉・球磨自然観察会」を開催

なりました。

【熊本南部森林管理署】「人吉・球磨自然観察会」を環境省希少野生動物種保存推進員の乙益正隆氏を講師に「鏡山周辺で見られる植物」をテーマで行われました。50人の参加者は国有林内を散策。モミ、ツガの大木や珍しいシダ類などを観察し枯損木の巣穴に生息するムササビ、フクロウなどの生態について勉強しました。休憩後、石神智生署長から「今後の国有林野の管理経営のあり方」についての話があり、直径巻尺を使い大木の測樹の実演に初めて見る器具などに興味を見せるなど、森林や生物の生態など知識を得る有意義な一日となりました。



乙益先生から説明を聞く参加者＝熊本南部

平成24年度九州の国有林から

「国民の森林」実現へ いろいろな事がありました

新生国有林がスタートして9年目となりましたが、「国民の森林」を目指して取り組んだ主な出来事や「広報九州」の中から振り返ってみました。

「第2回シカ捕獲業務検討会」開催

1月26日～27日の2日間、熊本市食品交流会館において、林野庁や北海道局・近畿中国局・森林総合研究所九州支所及び各署から参加のもと開かれました。

これは、シカ被害が全国的に深刻となっている現状から「シカ捕獲に関する情報や技術・知識の共有を図る」目的から開か



120人が参加したシカ捕獲業務検討会

「木になる紙ンボジウム」企画

れ、宮崎大学農学部教授細川吉晴教授から「シカ捕獲と自然の恵みをどう生かすか」と題した講演と各局署からシカ被害の現状と捕獲の取組について報告と意見交換があり120人が参加しました。

「1枚の紙から考える森林・地域・循環」と題し、2月25日木になる紙シンポジウムが佐賀県佐賀市民会館で開催され全国から160人が参加しました。これは、平成23年度グリーン購入大賞の最高賞で環境大臣賞を佐賀市役所が受賞した記念に開かれたもので、シンポジウムでは島田泰助前林野庁長官が「木になる紙」の有効性について、グリーン購入ネットワークの趣谷和也事務局長が「グリーン購入の考え方と木になる紙」と受賞理由についての基調講演があり、講演後のパネルディスカッション

ンでは、累計で1800万円以上を山側に還元している成果などが報告されました。

「九州森林環境シンポジウム」企画

「増えすぎたシカによる危機を考える」と題し、2月28日大分県佐伯市の佐伯文化会館で開催され森林林業関係者や一般市民、行政関係者など200人の参加がありました。

シンポジウムは第一部は報告と第二部はパネルディスカッションの二部構成で行われ、第一部の報告では森林総合研究所九州支所矢部恒晶氏、宮崎植物研究会南谷忠志氏、大分県農林水産部高宮立身氏、宮崎県東臼杵農林振興局日高三男氏の4人がそれぞれ専門家の立場からシカの



シカ被害対策についてのパネルディスカッション

生熊とシカ被害に関する報告があり、第二部ではコーディネーターに森林総合研究所九州支所長の中村松三氏を迎え、6人のパネリストによるシカ被害対策についてパネルディスカッションが行われました。

「有識者懇談会を開催」

「国有林野の管理経営に関する法律」に基づき、地域管理経営計画と国有林野施業実施計画の変更・経営樹立に係る有識者懇談会が3月7日に開かれ、平成23年7月の森林・林業基本計画の変更に伴い計画区画の経営樹立と計画変更に係る意見を懇談会の有識者委員の皆様からいただきました。委員の皆様から「木材目給率50%に向けた取り組みはこれからも重要であり、そのためには、低コスト造林の拡大に向けた技術開発を更に推進するべき」「生物多様性保全の観点から、シカ被害対策は今後も重要」「森林や木材利用の重要性について、もっと情報発信を行うべき」などの貴重な意見が出されました。

最後の「森林の市」へ出展

平成24年度「森林の市」が5月12日から13日にかけて東京都千代田区の「日比谷公園」で開

かれ、九州森林管理局からは、綾の照葉樹林プロジェクト活動をPR。出展では工夫を凝らした照葉樹林OXクイズやヒノキやサクラの枝を利用したモックン作りを行いブースは来場者が多く好評でした。



綾プロジェクトをPRする九州局のスタッフ

「フォレスト」研修がスタート

今年も6月25日から熊本県人吉市において、熊本南部森林管理署のフィールドを活用して開かれました。第1週目の研修では、フォレストとしての役割、地域の森林づくりをサポートしていくための必要な知識を学ぶ講義や実習を行い、また、9月から実施される第2週目の研修では1000本の木材生産団地を対象とした10年間の間伐計画

と林業専用道整備計画について総合的な森林整備の構想を策定しプレゼンする演習と研修1週目と2週目の学習内容を各県の市町村森林整備計画に落とし、実現に向けた取り組みについて検討する演習が行われ、九州各県から県職員や国有林の職員96人が受講しました。



准フォレスター研修へ参加されたみなさん

8月6日、熊本市の監物台樹木園で熊本県内の小学校で直接指導する教諭を対象に、体験を通じ森林・林業に対する理解と知識を深め学校での森林環境教育に活かしていただくことを目的に「森の塾」を開きました。

「森の塾」を開講

九州林政連絡協議会を開催

佐賀県において第97回九州林

政連絡協議会が8月22日から23日にかけて開かれ、林野庁から猪島康浩研究・保全課森林保全推進室長を迎え、九州各県や関係機関から約40人が出席しました。一日目の会議では、会長である九州森林管理局平之山俊作局長から「九州からの森林・林業再生」木材自給率50%達成するためには森林資源を単に伐採・搬出するのではなく商品に転化させなければならぬとあいさつがありました。

第9回九州森林・林業セミナー開催

「国産材需要拡大への挑戦」をテーマにくまもと森都心プラザにおいて開催されました。講師に(社)日本治山治水協会専務理事山田壽夫氏が「九州にお

ける木材の需要拡大について」に講演、同じく東京大学名誉教授安藤直人氏より「木を知り、木を活かす方策について」と題して講演があり、九州各県の関係機関から500人の参加がありました。

木材需要拡大に向けた意見交換会を開く

9月3日に開催された第7回九州森林・林業セミナーに合わせ、素材生産業、木材市場、木材加工業と木材需要拡大に向けた意見交換会を開き、柳田真一郎森林整備部長から九州の木材価格などについて説明があり、出席した7人の関係者からは意見発表がありました。また、各県の木材担当者もオプザーバーとして参加していただき、需要拡大に向けた有意義な意見交換会となりました。

大分西部森林管理署新庁舎が落成

昭和39年に建築された旧庁舎跡地に新庁舎が完成し10月9日落成式がありました。新庁舎は「公共建築物等木材利用促進法」踏まえ、県産材一三三立方の木材を使用し、耐震性や快適な執務環境、来庁しやすい庁舎をコンセプトに日田市の町並みに合わせた建築風としており、構造材には国有林の間伐材を使用し、



日田の町並みに合わせた切妻風屋根の新庁舎

木の温もりを感じる工夫を凝らした庁舎です。当署は大分北部や西部流域の森林・林業情報発信の拠点として地域と連携した国有林の管理経営の推進を図っていくこととしています。

林野庁長官が交替

9月11日付で皆川芳嗣前長官が異動し、後任に沼田正俊林野庁次長が長官に就任する異動がありました。

綾ユネスコパーク登録記念式典が開かれる

宮崎県綾町の綾町公民館文化ホールにおいて、綾ユネスコパーク登録記念式典が開かれ、九州森林管理局から矢野彰宏計画部長が出席。来賓祝辞で九州森林管理局として、綾の照葉樹林ブ

ロジェクトの諸活動を通じて、綾プロの取組に協力していきたくいと挨拶され、また、松田裕之横浜大学教授や鬼頭秀一東京大学教授による記念講演が行われました。最後に、上野登てるはの森の会代表から「これからは綾ユネスコパークの始まりであり、地域が一体となり盛り上げていこう」とあいさつがありました。



記念式典で挨拶を述べられる前田穰綾町長

第8回子どもスケッチ大会開催

親子で木々にふれあい森林やみどりの素晴らしさを実感してもらおうと監物台樹木園で「第8回監物台樹木園森林とみどりの子どもスケッチ大会」を開催。一般公募による親子166人が参加、講師の美術家怒留湯誓先

生からアドバイスを受けながら
スケッチを楽しんだ。

森林の流域管理システム推進 発表大会を開催

10月15日・16日の両日、熊本
市国際交流会館において、「平成
24年度森林の流域管理システ
ム推進発表大会」が開かれまし
た。大会には、九州・沖縄各県
の林業関係者や局・署などの職



熱心に発表を聞く大勢の参加者

員が参加。また、長崎県や
熊本県と鹿児島県遠くは沖縄県
から森林・林業を学ぶ高校生ら
延べ350人が参加。

課題は、それぞれの地域や職
場、学校などで取り組んでいる
林業技術や環境保護活動、シカ
被害対策など多岐にわたり、一
般の部17課題、高校生の部9課
題の発表となりました。

実践・公開講座を開講

熊本城内にある監物台樹木園
で実践・公開講座を開講。「葉
の構造を学ぶ」「絵手紙」「花
器作り」「草木染め」講座を
行いました。

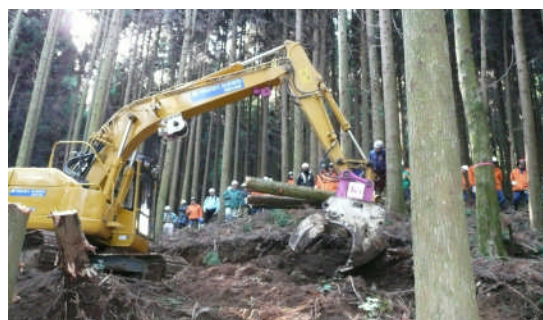


出来上がった作品に満足する受講者のみなさん

「森林作業道 現地検討会を開催」

【鹿児島森林管理署】森林作

業道開設に係る技術力向上と監
督職員などの指導力強化や、民・
国連携の一層の推進を図る目的
で「森林作業道作設」現地検討
会を開きました。局・署はじめ
鹿児島県や請負事業体などから
約70人が参加。はじめに森本義
春署長から労働災害未然防止の
注意喚起について挨拶の後、白
内慎哉販売係長から森林作業道
作設指針、作設上の留意点など



高性能林業機械による作設技術の実演＝鹿児島

の説明があり、その後、本日の
講師である(有)橋元林業の橋
元和博氏による高性能林業機械
フェラーバンチャザウルスロボ
を使用した作業道作設の実演が
あり、機械による作業道作設の
ポイントや特徴について説明が
ありました。意見交換では、
「九州でも最先端の作設技術を
実地で学ぶことができ大変貴重
な経験をした」、「安全面や効
率面で大変有効な作設技術であ
る」との高い評価を受け、民・
国連携の強化につながる有意義
な検討会となりました。今後も
このような機会を設け路網と高
性能林業機械を組み合わせた低
コスト作業システムの確立に向
け、技術力の向上と意識の高揚
を図っていくことにしています。

秋の全国火災予防運動

火災発生に備え消防訓練実施

「消すまでは 出ない行かな
い 離れない」の全国統一防火
標語のもと、11月9日から15日
まで、秋の全国火災予防運動が
行われました。

当局では、空気が乾燥し、火
災が発生しやすい季節を迎え、
火災予防の意識を高めるため、
11月20日に、当地域を担当する
熊本市西消防署の協力をいただ
き、局庁舎構内で消防訓練を行
いました。

在庁者全員が参加し、火災発

生時の通報や初期消火、避難誘
導など本番さながらの訓練を実
施。構内では職員による模擬消
火器を使った初期消火訓練を西
消防署職員の指導で体験しまし
た。

消防署からは、火元である部
屋のドアを開ける際には、熱気
に十分注意していたことや消火
栓による消火、避難誘導につい
ては、迅速な行動で声も出てい
たので良かったなどの講評をい
ただきました。最後に自衛消防



模擬消火器を使用し消火訓練をする参加者＝局構内

隊本部長の竹花
祐治総務部長か
ら「火災が発生
しやすい季節を
迎え、火を出さ
ないよう防火意
識を高め、火災
から尊い命と財
産を守ることが
大事であり、本
日の訓練を活か
して冷静に行動
して下さい」と
あいさがあり、
消防訓練を終了
しました。
(担当 川経理課)

第8回

「森林のアートギャラリー」表彰・除幕式

12月2日、「第8回森林（もり）のアートギャラリー」の表彰式並びに除幕式が九州森林管理局で行われ、生徒や先生・保護者約60人が参加しました。

今年、「森林（もり）の恵み」というテーマで下絵を熊本市内の小中学校、高校を対象に募集。市内の小中学校から18点の応募があり、下絵審査で選ばれた6作品について8月から大きなアートパネル（1・4層×4・5層）に描いていただき最優秀賞を局構内正門右壁と（優秀



最優秀賞作品「千年樹と憩いの場」をバックに

賞を東側ブロック塀に設置しました。

入賞校表彰の後、生徒らによる除幕を行い、展示作品の見事な出来映えに参加者から拍手と歓声が沸きました。

展示された作品は、これまでも道行く人たちの心を癒し、地域から好評を博しており、今回



本州、四国、九州の海岸および山野に生える雌雄異株の常緑小高木で、枝は円くて無毛、褐色を帯びます。

鳥毛と聞くと、遠い子供の頃を思い出します。森に行くと、モチノキを探し、モチノキの皮を剥ぎ、皮を田や溝に浸け腐らせ、数ヶ月後に水で洗いながら皮を碎いて鳥毛を作りました。ツバキの花が咲く頃、現在ではできませんが鳥毛を仕掛けてメジロを捕っていました。モチノキの名前は鳥毛を作ることからで、屋久島ではヤマ

の展示作品も自然や森林について関心をもってもらうきっかけになる事を期待しています。

し、今後2年間展示することになっています。

なお、今回の表彰作品は次のとおりです。

最優秀賞
「千年樹と憩いの場」
熊本市立帯山中学校2・3年
優秀賞
「森と自然」
熊本市立清水中学校1・2年
（担当：指導普及課）

62 モチノキ (モチノキ科)

グルマから鳥毛を作っていました。

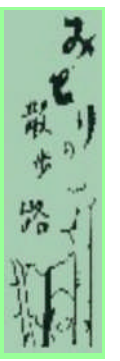
ヤマグルマから作られる鳥毛は「赤モチ」と呼ばれたとの記述があったので調べたら、「初めは赤褐色を呈しこれを赤モチという、ソーダで漂白すると淡灰色となり、これを白モチという」（樹木大図説）と記されています。私たちが作った鳥毛は薄緑色でした。

似た樹木にクロキがあります。モチノキは葉表主脈が凸出しておらず、枝先の稜があまり発達しないことの確認で区別できます。樹木園には、西側手前



の丸太小屋の前にあります。

「森と自然」
熊本市立出水中学校1年
「ようせいの箱庭」
熊本市立楠中学校1・2年
「森林に抱かれて」
熊本市立江南中学校美術部1・2年
「憩いの森林」
熊本市立桜木中学校美術部1・2年
「森にかこまれていく妖精達」
熊本市立清水中学校1・2年



ホームセンターやインターネットなどで、種と土と鉢がセットになり室内で野菜などが育てられる栽培セットが売られています▼わが家でも娘がキノコ好きなので、キノコ栽培セットを購入しました。宮崎県産のシイタケ菌床栽培セットが届き、早速栽培を始めました▼菌床はナラやクヌギなどのオカクスと米ぬかなどの栄養分を合わせたものに種菌を植え付けて培養したキノコの培地で、人工ホダ木とも言われているそうです▼シイタケ栽培には原木栽培と菌床栽培がありますが、全国の生シイタケの約8割は菌床栽培、約2割が原木栽培で、乾燥シイタケは原木栽培が殆どです。また、風味や食感などシイタケ本来の旨味は原木栽培の方が味、香りが強く、菌床栽培のシイタケは味、香りが劣りシイタケが苦手な人や和食以外の組み合わせなどに向いているそうです。料理の種類によって使い分けてみるのもいいかもしれません▼今、わが家のシイタケに娘が毎日「大きくなあれ。大きくなあれ」と話しかけています。ちゃんと育ってくれるかな...? (恵)